

稲(C3型)とトウモロコシ(C4型光合成)

-地球温暖化対策?-

https://l-hospitalier.github.io

2021.8

【カルビン回路】植物の光合成は太陽エネルギー固定の唯一の方法で、全ての生物はエネルギーをこのシステムに依存する。 光合成には明反応(light reaction)とカルビンとベンソンが解明した暗反応(dark reaction、右下図)があり前者が光エネルギーの固定、後者が糖合成を担う。 葉緑体の明反応は光化学系 I(PS I)で 700 nm 以下の波長の光で NADP+を NADPH に変換、光化学系 II(PS II)で 680 nm 以下の波長の光で H_2O から電子を取り去り H^+ (と O_2)、NADPH と ATP を産生する。 暗反応の収支は NADPH と ATP を消費し6 CO_2 +12 NADP+18ATP O_6 H O_1 2O O_2 0+12 NADP+18ATP O_6 1+12NADP+18ADP+18Pi。 明反応からの最終的収支は O_2 1-12 NADP+18ATP O_3 1-12 (RuBisCo) ルビスコ、リブロース-ビスリン酸カルボキシラーゼ/オキシゲナーゼ(riburose-1,5-bisphosphate

carboxylase/oxygenase)は地上で最も多いタンパク質で暗反応(カルビン回路)の CO_2 固定の中心。 【C3 型と C4 型植物】 世界 3 大穀物はトウモロコシ、小麦、米。 この中ではトウモロコシだけが C4 型で他は C3 型。 イネ科植物のトウモロコシやサトウキビは 28 \mathbb{C} 以上の高温乾燥で効率よく CO_2 を吸収、 O_2 と糖を産生。 28 \mathbb{C} 以下では C3

型は光吸収が無い時に ATP18 分子で 6 単糖を 1 分子合成し C4 型の 24 分 子より高効率。 1950~60 年にコーチャックとカルピロフによりカルピン回路

の前段階に CO_2 の濃縮、固定が示され、1966 年に MD Nッチ(豪)と CR スラックにより炭素 4 原子(C4)のオキサロ酢酸を経由する回路が明らかになった。 カルビン回路だけで糖合成する植物はルビスコにより 5 炭素のリブロース 1,5-ビスリン酸に CO_2 が結合して 2 分子の 3-ホスホグリセリン酸(3 炭素)を生成するので C3 植物と呼ばれる。 C4 植物でも CO_2 固定は葉緑体のカルビン回路によるが、前処理として葉肉細胞のホスホエノールピルビン酸(PEP)カルボキシラーゼで PEP に CO_2 を結合し 4 炭素のオキサロ酢酸を合成貯蔵(植物によりリンゴ酸に変換)、維管東鞘細胞へ輸送する。リンゴ酸やオキサロ酢酸は維管東鞘細胞で脱炭酸酵素 (デヒドロゲナーゼ)により CO_2

を放出。 C4型の維管束鞘細胞には葉緑体 (カルビン回路) があり、ここで

A) C₃植物の葉の細胞配列

糖を合成。 この前処理系により C4型では高温乾燥で気孔を閉じてもカル

柵状葉内細胞はルビスコ を持ちCO₂をRuBPに固 定して3PGを産生する

#管束鞘細胞は葉緑体を少数しか持たずルビスコを持たな

ビン回路に持続的な CO₂ 供給が可能 (C4 植物は維管束鞘細胞が発達しており見た目に葉脈が太い)。 C4 植物は高温乾燥に強くトウモロコシは熱帯、亜熱帯の主要穀物。 小麦や稲

も PEP カルボキシラーゼの遺伝子配列を持ち C4 経路の起

^{〜 介旧} になるのが発見 _{ハ キコ} された。

Crassulacean

はベンケイソウ。

最初にこの植物 の葉が夜間酸性

海線状葉肉細胞 源は古いと考えられる。進化の過程での選択であろ 下部表皮 う*1。 右はトウモロコシと稲の葉の窒素含有量と光合成

速度の関係。 乾燥に強いサボテンなどの多肉植物で CAM

B) C。植物の葉の細胞配列 工度の 実 (実 の 無 に ない う 酵素 を 持つ。この 酵素 は COo と PEP の 反応を 触媒 し、 4 後 素 分子 オキ サロ 酢酸 を 産生する

上部表皮

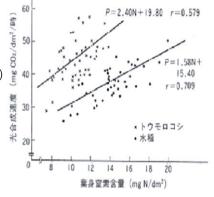
維管束鞘細胞はルビスコを持ち、 ルビスコはRuBPとオキサロ酢酸 から遊離したCO₂との反応を触媒 する

い。CO2を固定しない

葉肉細胞と維管束鞘細胞は近くに存在するので、CO₂の葉肉細胞から維管束鞘細胞への移行が可能となる

型光合成 (Crassulacean Acid Metabolism) を行う植物もある*2。 地球温暖化で乾燥が進めば CO₂は増えても C4 化が必須?

¹ EU は 3 to 4 project で稲の C4 化を研究中。 ² CAM 型は夜間気孔を開き CO₂取込、有機酸として 多肉の葉の液胞に貯蔵、昼に気孔を閉じて糖合成/。



#290